SDGs
輝く未来へ ㉟

住民に「行動」促す

藤岡市ボランティアネットワークセンター「ウィズ」（同市）

ボランティアや市民活動への関心を高め、より良い地域づくりにつなげる中核施設として、藤岡市は2002年、市ボランティアネットワークセンター「ウィズ」を開設した。現在は市が委託した運営委員会が運営。事務長の佐藤倉雄さん(70)とスタッフ4人が団体設立に関する相談を受けたり、活動を後押ししたりする。

対象は福祉や文化、スポーツなど多分野にわたる。登録団体には備品の使用を優遇するなどして支援。福祉施設と慰問演奏をするボランティアの橋渡しも積極的に行う。スタッフ歴10年以上の高橋絹子さん(55)は「団体やイベント来場者からの『ありがとう』にやりがいを感じてきた」と充実した表情で語る。

07年から、ウィズの登録団体代表者でつくる実行委と市教委で「市民活動フェスティバル」を開催。楽器演奏やフラダンスなどのステージ、各団体を紹介するパネル展示で、来場者が交流する場を提供してきた。コロナ下の昨年は、代替イベント「市民活動展示交流会」に切り替えた。市民から身近な材料で作った小物などを募り、チャリティーバザーを行うといった形で市民活動の場を設けた。

国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）の目標4「質の高い教育をみんなに」に力を入れる。昨年3月、持続可能な社会の担い手を育む教育「ESD」の地域活動推進拠点として認証されたのが契機となった。

藤岡日野小でウィズが行ったSDGs出前講座＝昨年12月

佐藤さんを中心に同年7～12月、SDGsの出前講座を開いた。藤岡日野小など市内外4カ所で、ペットボトルキャップの投げ捨てが魚にもたらす悪影響を年齢に応じて分かりやすく解説。キャップが途上国に送るワクチン購入に活用されることなどを教えた。

市民らに呼び掛け、市総合学習センターやらん藤岡での清掃ボランティアも14年から続ける。佐藤さんはSDGsに関して「『知ってもらう』ではなく『行動してもらう』を呼び掛けていきたい」と強調。「コロナ下で住民が集まる機会が減る中で、前向きになれるきっかけとしてSDGsの取り組みを続けていきたい」と話している。

（村山拓未）

（おわり）

【活動メモ】2005年から藤岡市が委託する運営委員会（松原甚太郎委員長）が市総合学習センターを拠点に運営する。スタッフ5人がさまざまな団体などの中間支援業務を担い、21年4月時点で122団体45個人が登録している。